

水枯れで、田植えが心配――

リニア工事で井戸水・ため池の水位が低下、枯渇した水源も！



水位が下がって底に亀裂が生じた池――瑞浪市

JR東海によると、昨年12月と今年2月にトンネル内で湧水が発生。2月下旬には観測用井戸で水位の低下を把握していたものの、岐阜県や瑞浪市へは報告しておらず、5月16日の記者会見ではじめて明らかにしました。

地元からは「対応が遅い」「なぜ、ただちに中止しなかった」と批判の声が湧きあがりました。

こうした批判の声を受けて、同会社は即時中断が必要と判断し、会見翌日の17日からトンネル掘削工事の作業自体を中止していました。

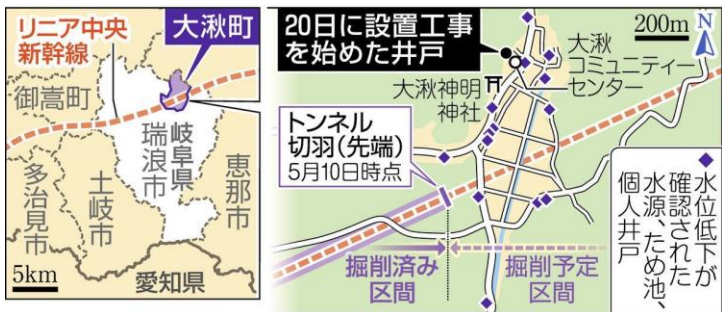
20日になって、JR東海は、同市でのトンネル掘削工事を一時中断したと明らかにしました。同社は、掘削が進む場所の地質を調査するため、6月以降に掘削方向に向かって、水平のボーリング調査を実施す

るとしています。

瑞浪市内の32カ所を調べたところ、集落に水を供給する共同水源3カ所、個人宅の井戸9カ所、ため池2ヶ所の計14カ所で水位の低下が確認されました。共同水源

のうち1カ所は4月に入ってから枯渇し、井戸の新設や上水道の工事を同社負担で進めるとされています。

「ちょうど田植えの時期。水位の低下は命取り」と憤りの声があがっています。



岐阜県委員会とリニア工事沿線地区委員会 もとむら衆院議員と国土交通省レク

こうした事態を受け、5月24日(金)午前、もとむら伸子衆議院議員と岐阜県委員会、地元市議と恵那地区委員会、東濃西地区委員会、中濃地区委員会は、オンラインを結び、国土交通省の担当者からレクチャーを受け、要望を届けました。

リニアの工事が地下で進められる地区委員会からは「ホテルの名所となっている川が、もし水源が枯渇してしまったら、二度と元には戻らない。そうなるから井戸を掘るとかでは手遅れだ。少しでも水位低下がみられたら、トンネル工事はストップしてほしい」

「新聞も届かないような、集落からはずれた世帯では、上水道を代替にするとと言っても、無理ではないか。井戸水だけが頼りで生活している方は、生活が成り立たなくなる」

「井戸の水位低下を2月の時点でJR東海が知っていながら、3か月

も国交省への報告が遅れたのは納得できない。工事をすぐ止めれば、被害はもっと少なくて済んだのではないか」

「水位が下がった井戸をそのままにして、別の井戸を掘るとか、上水道をひくなんて論外。井戸の水位をあげてほしい」

「原因の究明と、再発防止ができるまでは工事は止めるべき」などの声が相次ぎました。